



日本建築学会

# 東北支部年報

第 21 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp

http://www.arch.ce.nihon-u.ac.jp/ aijtohoku

## 巻頭言

### 学会活動方針「特色ある支部活動の推進」をめざして

東北支部長 岩崎 博

学会の活動方針の大きな柱の一つとして、2000、2001の両年度とも、標題の「特色ある支部活動の推進」が挙げられております。

皆様ご承知のとおり、これにさきだつ、1999年度の総会において、学会の社会的役割と使命について、「日本建築学会倫理綱領・行動規範」を決議し、決意を広く公にしたところです。その要点の中に、「……それぞれの地域における固有の歴史と伝統と文化を尊重し……」とあり、建築活動は、地域の「生活の器」としての観点から、当然なことですが、グローバルスタンダードだけでなく、ローカルスタンダードも重視し、社会に貢献する方針をアピールすることになり、支部活動もこれを基調に展開されることとなりました。当支部は、地域面積も広く、自然環境も豊かで多彩で、独自の人文環境を有し、支部のみならず支所の存在が極めて重要で、その点からも、学会活動方針の具体化にふさわしい地域の一つと思われまます。

さて、2000年度、この趣旨に沿った形での大会(東北)が、これまでとやや異なり、地域ブロックの中核都市を離れた位置で開催され、当支部でも仙台以外では、初めての経験でした。昨年より6000題を超え始めた発表数だけでも、前東北大会の約42%増、これに40以上にも

のぼる各種研究協議会・研究集会や市民向けのイベント、作品展、見学会、懇親会の企画・運営、連絡、会場設営、延べ2万人以上の交通・宿泊など実行委員会の方々や支部・支所関係者を中心とし、開催校、日本大学工学部の献身的な支援のもと準備がすすめられ、無事、終了することが出来ました。ここに、関係の方々に厚く御礼申し上げます。

また、今回の開催から、地域にわけいり、より地域住民に身近なところでの開催は、言うまでもなく、建築が土地に定着する構造物であること、建築投資の過半は住宅であることから、学会は常に市民との相互交流・発信がきわめて重要であることを再認識させられました。中小都市、郡山市での実績から、他の支所での開催をぜひお勧めし、活動方針の伸展を計りたいと思います。

以上、述べたとおり、当地域の置かれた条件および学会への多様化する社会的要請から、支所活動の益々の重要性に鑑み、これまで以上に研究報告会を含めた各種イベント等についての工夫・企画立案の共同作業や地域住民の方々、建築関係諸団体、専門工事業関係団体とのさらなる連携強化を計っていきたいと思います。よろしくご指導、ご協力をお願いします。

もくじ	巻頭言 学会活動方針「特色ある支部活動の推進」をめざして	1	2000年度日本建築学会設計競技東北支部審査報告	8
	2000年度日本建築学会大会(東北)報告	2	2000年度東北支部研究報告会	8
	00 建築文化週間事業	3	2000年度日本建築学会東北支部総会報告	8
	00 親と子の建築講座	3	研究部会活動報告	9
	第21回東北建築賞(作品賞)選考報告	5	支所だより	12
	第21回東北建築賞(業績賞)選考報告	7	常議員会から	14
	第11回東北建築作品発表会報告	7	支部役員名簿	15
	第20回東北建築賞(作品賞)表彰式および展示会報告	7	2000年度事業報告	16
	日本建築学会「作品選集2001」東北支部選考経過報告	8	2001年度事業計画(案)	18

## 『2000年度日本建築学会大会(東北)』報告

常議員 濱田幸雄

2000年度日本建築学会大会(東北)が、平成12年9月8日～10日までの3日間に渡り、福島県郡山市の日本大学工学部キャンパスを主会場として開催された。東北支部としては、1991年度大会以来の開催である。大会準備・運営に当たっては、大会委員会(委員長:岩崎博教授)、実行委員会(委員長:佐藤平教授)を組織し、東北地方の官公庁・大学関係者等と協力しながら1年半に渡り準備を進めた。大会期間中の主要行事の概要は以下の通りである。

1. 学術講演ほか 学術講演会の発表題数は6,131題、学術講演・研究協議会等の参加総数が17,456名、建築作品展の参加者が延べ1,982名であった。

2. 記念講演会・見学会など 9月7日にビッグパレットふくしまを会場として『子供と高齢者に向けた行動計画』シンポジウム実行委員会(委員長:若井正一・日本大学)と共催で大会記念講演会を開催した。

(1) 大会記念講演会: 9月7日(木)14:00～18:30

・第一部 記念講演会 主題『ほんとの空』

1. プロローグ 「勅使河原宏個展 BAMBU」

2. 講師紹介 星 亮一(作家)

3. 記念講演 『勅使河原宏が語る - 日本のこころと美意識』

講師: 勅使河原宏

4. ミニトーク 勅使河原宏、星 亮一

5. まとめ 佐藤昭一(画家)

・第二部 公開シンポジウム

主題『新世紀へのパスワード - こどもの夢・おとなの夢』

司会: 北原啓司(弘前大学) 副司会: 本多和恵(日本大学)

主旨説明: 大村虔一(東北大学)

こどもの夢『元気が出る空間づくり』 - 社川小学校の挑戦

近藤道雄(建築家) + 社川小学校のみなさん

おとなの夢『IT時代の元気な高齢者』 - 西会津町の挑戦

外山 義(京都大学) + 山口博統(西会津町長)

コメンテータ: 高橋鷹志(新潟大学) 青木恭介(宮城工専)

(2) 「ビッグパレットふくしま(福島県産業交流館)」見学会

日時: 9月7日(木)10:30～12:00

講師: 北川原温(建築家)

(3) 「三春町の学校建築」見学会

日時: 9月10日(日)13:30～16:30

講師: 長澤 悟(東洋大学)

同行世話人: 岩田 司(建設省建築研究所)

近藤道雄(有)近藤道雄建築設計室)

3. 懇親会 9月8日(金)18:00～20:00 ホテル ハマツ

料理、アトラクションを通して、できるだけ地方色を出すよう配慮した。その結果、出席者は390名を超えた。

4. 参加者数

(1) 大会参加登録者: 会員(一般) 5,305名 / 会員(大学院生) 2,089名 / 会員外(一般) 210名 / 会員外(大学院生) 110名 / 準会員・学部学生・市民 222名 計 7,936

(2) 学術講演発表題数 6,131題

(3) 研究集会等: 学術講演会(12部門) / 研究協議会 / ポスターセッション 17,333名

(4) 建築作品展 1,982名 / 大会懇親会 391名 / 開閉会式・見学会・大会記念講演会 709名

以上、大会参加者は、延べ2万415名となった。

おわりに

大会を無事に終了することができたのは、運営に必要な諸設備と屋内外の会場整備に多大なご支援をいただいた大学、附属高校の関係者、岡田恒男学会長を始めとする本部役員、事務局の方々、関連官公庁、支部常議員の方々及び近畿日本ツーリストグループ担当者の皆様の献身的な尽力によるものであり、心より感謝申し上げたい。最後に、東北支部での開催決定より終始ご尽力いただいた大村虔一前支部長に、深謝の意を表させていただきます。

## '00 建築文化週間事業

### 建築を思う環境講座

福島支所 蓮沼敏郎

主催：福島支所

日時：6月24日(土)13:00~17:00

会場：福島市民会館

環境講座第3弾の今年のテーマは、「建築を思う環境講座」ですが、建築は建築主と設計者と施工者との共同行為であり、この共同行為の環境を上手に組み立てることが出来れば、良質な建築、街、都市が出来るはずとの思いから、副題を「建築主と設計者のコミュニケーション」として、去る6月24日の土曜日に開催いたしました。

今年の環境講座は、昨年の建築模型講座を継承しつつ、建築主と設計者のコミュニケーションに焦点を絞った構成としました。また、受講の対象を専門家に限らず、これから住宅を作ろうとする一般の方々や、建築を志し勉強中の生徒、学生が参加しやすいものと考え、「家づくり講習会」と「建築模型実践講座」の二部構成としました。参加者が第1部90名、第2部30名で、学生、高校生が半数以上をしめるという期待通りの結果となり支所長、事務局員とも胸をなで下ろしました。

まず、「家づくり講座」ですが、阿部直人建築研究所の阿部直人さんをお願いしました。阿部さんは、建築模型を建築主の希望の具現化の表現方法としてだけでなく、建築主と建築家の人生観や設計意図を共有するためのツールとしての位置づけを活用しているとの話がなされ、特に学生や生徒さんには、めざすべき建築家像を見せていただいたようです。

また、同講座では「後悔しない家づくりのための住宅新法」と題して、財団法人福島住宅センターの吉田寿雄さんを講師に迎え、今年4月から施行になった住宅新法「住宅の品質確保の促進等に関する法律」について、この法律の出来た背景から分かりやすく解説していただきました。

さらに、第2部の「建築模型実践講座」は、平木建築設計事務所の富樫龍男さんと、模型製作のプロであるスケールモデル・ジオの佐藤実さんに講師をお願いし、実際に建築模型を作成し、デザインコンセプトの発表などを行いました。この講座への参加は、学生・生徒が中心となり移動大学・高校の様相を呈し、参加者全員が熱心に作成に取り組み、時間も延長することになりましたが、その模型は生徒さん方が学校に持ち帰り、ほかの生徒にお披露目したりと予想以上に活躍しているようです。

## '00 親と子の建築講座

### ～弘前を知る～文化遺産のたてものを訪ねて

古跡昭彦(青森県立弘前工業高等学校)

弘前市には、偉人たちが建てた数多くの建物があります。その建物を見てまわり、郷土を再発見してもらう事を目的に、平成12年9月9日、50名の参加者のもと、親と子の建築講座「～弘前を知る～文化遺産のたてものを訪ねて」を開催しました。

見学した建物は、藤田別邸・旧弘前市立図書館・旧第五十九銀行本店本館・日本基督教団弘前教会・長勝寺三門の5棟でした。それぞれ設計者・施工者はだれで、どのような特徴があるのか等、見る観点を説明しながら見学してもらった。参加者には使い捨てカメラを配給し、観点にそったところの写真も同時に各自で撮ってもらった。今回は特に管理者の許可をもらい、本来では一般公開されていないところも見学させていただくことができ、普通であれば見られない物や味わえない経験を体感することができました。全ての建物を見学した後、スタッフの方で撮ってきたデジタルカメラの映像を投影しながら、再度詳しい解説を加えて、その建物へ知識を増やし、理解度を高めてもらった。また、各自が撮った写真をスピード現像して解説中に配付し、事前に用意されたファイルに、各建物の入場券やパンフレットを貼ったり、写真を貼って解説を書く等して編集し、それぞれ自分たち独自のレポートファイルを完成させました。

参加した親子達から”初めて建物内部を見た。もっと多くの建物を見たい。この遺産を大事にしたい。”という感想が聞かれました。弘前にこんな立派な文化遺産である建物があることに一同驚き、郷土弘前を改めて発見し、また、遺産を守り続けようという郷土心も培われたものと思います。完成したファイルを開く度、参加者達が多くの感想を語り続けてくれる事を確信しています。



### 「CADを用いた夢の空間設計体験」

竹花定夫(岩手県立産業技術短期大学校)

平成12年10月28日に、岩手県立産業技術短期大学



校において、親と子の建築講座「CADを用いた夢の空間設計体験」を開催しました。本校の学園祭に合わせて開催していることもあり、今回も定員いっぱいの11組の親子の参加がありました。

講座では、パソコン用の住宅デザインソフトを使って、親子で協力しながら住宅の三次元モデルを作成してもらいました。

ほとんどが簡単なマウス操作なので、子供たちが中心になって作成しましたが、分かりづらい作業では、親やアシスタントの建築科の学生がサポートしながら進めました。

完成した住宅モデルは、ウォークスルー機能で内部を表示したり、パースを印刷することができるのですが、今回は、部屋の中に自分が立っているパースを作ってみました。

まず、背景用の板を用意し、デジタルカメラで参加者の写真を撮り、画像処理ソフトを使って、写真の背景を修正します。

次に、住宅モデルの中に、撮影に用いた板と同じ大きさの板を作成して、写真データを貼り付けます。写真の背景の色を透明に設定することで、参加者の等身大のパネルができます。横から見ると厚さが無いのですが、うまく配置すると、自分で作成した家の中に自分が立っているパースを作ることができます。

今回の講座では、住宅デザインソフトと画像処理ソフトの二つの使い方を覚える必要があったため、すこし難しく、時間も足りなくなっていました。

しかし、参加した小学生達は、カラープリンタで印刷したパースを手にして、とても喜んでいました。

## 「宮町たんけんワークショップ」

企画運営委員 細田 洋子

平成12年11月24日、仙台駅北側にある宮町を探検するワークショップを行う講座（指導：渋谷セツコさん（建築と子供たちネットワーク仙台））を実施しました。参加したのは、宮町を学区とする東六番丁小学校の5年生53名です。

探検は、宮町のほかに、区画整理の行われている二十人町、高層ビルの建ち並ぶ仙台駅周辺地区を巡るもので、ポラロイドカメラを用いて気に入ったもの、気になるものの観点で観て歩きました。

古い建物を使っている味噌屋さんでは、お店の方から中2階の部屋をみせていただきながら「宮町の通りはお殿様が通る道なので、上から見下ろさないように2階を低くした」という説明を受け、昔の人たちの家づくりの工夫を知ることができました。また、着物の袖の形になっている「袖振丁」と名づけられた道があることや、緑がほとんどなくなってしまったようにみえていてもビルや駐車場の片隅でまだ頑張っている樹木がたくさんあることなどもわかりました。さらに、高いところから宮町

の街並みを眺めようと、仙台駅近くの高層ビルの屋上に上り、南側の仙台駅周辺のビル群と北側の東照宮の森が対照的なまちの風景を一望しました。

通いながれた道も改めて探検することで、子どもたちは様々な新たな発見をすることができたようです。

その後、学校では、このワークショップを発展させて、未来の宮町をデザインする総合的な学習に取り組みました。



二十人町で

## 「建物のひみつ 『かたちとつよさ』」

倉田 光春（日本大学工学部）

「構造物の『かたち』による『つよさ』の違い、構造的な造形美を子供たちの感性によって理解してもらいたい。」といった目的で、平成12年8月5日（土）、6日（日）の二日間、福島県郡山市児童文化会館にて、親と子の建築講座「建築のひみつ『かたちとつよさ』」（講師：倉田光春・日本大学教授）を開催しました。

午前、午後の二部制で二日間、計120人の参加の下、模型やスライドを利用してわかりやすく、そして楽しめるような講義と演習を行いました。

講義では、アーチ構造、ラーメン構造などの簡単な模型を用いて、参加者自身で三角形や円という『かたち』の『つよさ』を体験してもらい、シャボン液を用いて膜構造やシェル構造の安定性の説明をしました。また、スライドを用いて身近に存在する建物にも三角形や円などが使われている事を解説しました。その後、三角形や円形で構成されている簡単な折り紙建築模型を作成してもらい、みための美しさと『つよさ』との関係、そして出来上がった模型に実際に力を加えてみて、“つよいかたち”と“よわいかたち”についても体験してもらいました。

シャボン膜を見ては感動の声を上げる子供達、模型作成では親子で助け合う、まさに主催者の意図するところが理解されたと思われます。人が生活するための建築、その建築構造に潜む『かたち』と『つよさ』、そして構造的な美しさを体験することを通じて、親と子の関係を深め、子供達に建築に対する親しみを与えることができると思います。

## 第21回東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 菅野 實

応募総数

小規模建築物部門 9 点、一般建築物部門 16 点の合計 25 点

事前打合わせ会 平成 12 年 9 月 27 日 支部会議室

応募作品の確認を行った上、作品発表会の開催要領を審議し、さらに、選考基準等の審査方法を審議した。いずれも昨年度の方法にならうことが確認された。

第 1 次審査会 平成 12 年 10 月 21 日 エルパーク仙台

応募された 25 作品について、1 点当たり発表 7 分、質疑 3 分の計 10 分で、公開による作品発表会を行った。その後、引き続いて第 1 次審査会を開催した。

作品発表会における発表・質疑応答を通して、各作品に対する理解がかなり深まっている状況を踏まえ、直ちに投票を行った。即ち、小規模建築物部門において 5 点（以内）を、一般建築物部門においては 10 点以内を各自投票した。その結果、まず、4 点以上獲得した 11 作品が第 2 次審査へ進むこととなった。次いで、小規模部門で 3 点を獲得した作品が追加され、さらに小規模部門で 2 点を獲得した作品と一般部門で 3 点を獲得した作品は関連した 1 つの作品として審査するのが妥当と判断され、現地審査対象となった。その結果、合計 13 作品が 2 次審査へと進むこととなった。

最後に、現地審査の割り振りが審議され、審査員 1 人当たり 3～5 点、1 作品当たりでみると最低 3 人の審査員が同じ作品を現地審査することとなった。

なお、その後、現地審査対象の 1 作品について、日本建築学会作品賞にノミネートされたことを理由に東北建築賞の応募・審査を辞退したい旨の申し出が応募者からあり、通信による審議の結果了承された。

第 2 次審査会 平成 13 年 1 月 16 日 支部会議室

最初に各自が現地審査を担当した作品について A・B・C のランク付けをした。A ランクは東北建築賞に相応しい作品、B ランクは審議により賞に入選可能な作品、C ランクは賞に及ばない作品を目安に判定することにした。次いで、作品毎に全ての作品について、現地審査担当委員から結果を報告してもらい、他の委員から質疑応答を行った。その上で、投票と合議により、小規模建築物部門 2 作品、一般建築物部門 1 作品を作品賞として選考し、また、審査員特別賞として 3 作品を選考した。

選考結果

作品賞（3 点）

太田総合病院附属慢性疾患児家族宿泊施設ファミリーハウス桔梗

施 主 太田総合病院

設計・監理〔建築〕(株)惟建築計画  
〔構造〕遠山一級建築士設計事務所  
〔設備〕田辺設備計画

施 工〔建築〕(株)間組東北支店

〔空調・衛生〕日新設備(株)郡山営業所  
〔電気〕(株)ユアテック郡山営業所

みちのく風土館

施 主 栗駒町

設計・監理〔建築〕阿部仁史アトリエ  
〔構造〕NS 設計  
〔構造協力〕東北工業大学 小野瀬順一  
〔設備〕総合設備計画東北事務所

施 工〔建築〕宮城建設(株)  
〔空調・衛生〕センボックス(株)  
〔電気〕(株)藤電気

岩手県市町村職員保健保養施設（ゆこたんの森）

施 主 岩手県市町村職員互助会

設計・監理 (株)関・空間設計  
施 工〔建築〕(株)銭高組・高弥建設(株)特定共同企業体  
〔電気〕(株)ユアテック  
〔機械〕(株)朝日工業社

審査員特別賞（3 点）

T Haus（立木邸）

施 主 立木祥一郎

設計・監理 アトリエタアクー一級建築士事務所  
施 工 長谷川工務店

中尊寺新讃衡蔵（宝物館）

施 主 宗教法人中尊寺

設計・監理 (株)三衡設計舎  
施 工〔本体工事〕松井建設(株)東北支店  
〔展示工事〕(株)京都科学東京支店

仙台市立坪沼小学校・坪沼コミュニティーセンター

施 主 仙台市

設計・監理〔建築〕(株)みちのく設計  
〔構造〕(株)ゴウ構造  
〔設備〕(株)建築設備設計研究所  
施 工〔建築工事〕仙建工業(株)・(株)丹秀工務店共同企業体  
〔強電設備〕第一電設(株)  
〔弱電設備〕愛宕電気(株)  
〔衛生・空調〕(株)アトマックス

選考委員

委員長 菅野 實（東北大学教授 / 建築計画部会）

委 員 遠藤昭五（遠藤昭五建築設計事務所 / 山形県建築士事務所協会）

知野伸一（アリア建築・環境研究所 / 日本建築協会東北支部）

月館敏栄（八戸工業大学教授 / 歴史意匠部会）

橋本 寛（日本大学助教授 / 施工部会）

土方吉雄（日本大学助教授 / 地方計画部会）

松本真一（秋田県立大学教授 / 環境工学部会）

毛呂 眞（八戸工業大学教授 / 構造部会）

吉田藤子（東北地方建設局建築課長 / 常議員）

講 評

建築は社会の鏡である。今なる社会が建築に何を求め、建築家がどう応えているのか。今回の応募作品をみると、

今なる時代の特徴がよく理解されよう。一見華やかな建築は影をひそめ、地域風土にしっかりと根をおろした作品、自然的環境、歴史的環境における建築の在り様を示した作品、古い建物を大事に再利用して価値を一層高めた作品など、新世紀の東北建築賞は、建築の価値の時代性・多義性を色濃く反映した結果となった。

#### 作品賞

「太田総合病院付属慢性疾患児家族宿泊施設ファミリーハウス桔梗」

閑静な住宅地の中に佇む光の空間である。プライバシーとパブリックのヒエラルキーに光量をあわせるなど、変化に富んだ「光」の演出によって、入院児家族の癒しの場としての機能に込めている。限られた敷地条件のもと、建物軸を道路境界線から回転させることによって、駐車スペースと庭を確保しながら、宿泊部分への外部環境の取り入れに成功している。また、地盤面と接する際部分の扱いに工夫をこらして建物に浮遊感を与えており、屋根やサッシュの見付幅を極限まで細くするなどして、光の演出を徹底するとともに、建物の構造を感じさせない軽やかな空間に仕立てている。ひたすら美しい、繊細な作品である。

#### 「みちのく風土館」

米倉としてつくられた築70年ほどの組積造の石蔵を、小規模ながら程よいスケールの展示施設として蘇らせた再生術は見事である。蔵内部にコの字型平面の通路空間を鉄骨の構造体で組み込んで、必要な耐震性を確保しつつ、4つの展示室等にゾーン区分している。小屋組みを露出させ、高窓からの光が降り注ぐ展示空間は重厚な雰囲気醸し出している。それとはやや対比的に、物産品の販売や他目的ラウンジ等が中庭をはさんで石蔵との調和に留意しつつも開放的に増築されている。ローコストの制約を受けながらも、リニューアルのモデルとなる巧みな手法を編み出している。運営母体を強化して積極的な活用方策を期待したい。

#### 「岩手県市町村職員保健保養施設（ゆこたんの森）」

風光明媚な景観の中にあって、強烈に存在を主張するでもなく、穏やかにそして伸びやかにつくられている。木造の温泉棟は既存の自然をできるだけ保全するよう森の中にひっそりと溶け込み、またRC造の宿泊棟は地勢を壊すことなく有機的なS字カーブ状に配置されている。



< 作品賞 > 太田総合病院付属慢性疾患児家族宿泊施設ファミリーハウス桔梗」

「ゆったり・のんびり」をテーマとする設計コンセプトは、内装材の選択や建具のディテールに至るまで浸透しているが、決して押し付けがましくなく、さりげない楽しさに溢れて心が和む。発注者との密度の高い協議を重ねたであろう設計者の真摯さと力量を感じる作品である。今の魅力が永く維持され、ますます味わいが深まるような施設運営を望みたい。

#### 審査員特別賞

#### 「Haus（立木邸）」

真っ白な雪に包まれ、静かに大地に根をおろしたような、控えめな住宅である。白い床と壁、高い天井の居間を中心とし、上へ奥へと誘う「すきま」をさりげなく組み合わせ、ほのぼのと落ち着いた住まいに仕上げている。飛びぬけておどろくような技巧を使うことなく、学芸員である施主の住まいに対する考え方をきっちりとした設計でまとめている。断熱性の優れた高品質な素材の使用、バリアフリー等、木造での高耐久性性能を求めつつ、妥当な建設コストに押さえていることも評価したい。

#### 「中尊寺新讚衡蔵（宝物館）」

鬱蒼としたつづれ折りの参道を登っていくと、いつの間にか金色堂に辿り着く。金色堂の手前にある讚衡蔵は、新築されたとは気がつかないほど風景によく馴染んでいる。RC造の金色堂新鞘堂の基本デザインを取り込みながら、むしろ存在を消している印象を受ける。丈六仏三体を安置した内部は、出入り口と参拝空間をガラスで巧く仕切ることにより静謐な瞑想空間を確保している。千年近い歴史的環境における讚衡蔵には、自らの存在を消しつつもテキストとして現代的読解を可能とする知恵と技術の使いこなしがみられる。

#### 「仙台市立坪沼小学校 坪沼コミュニティセンター」

周囲の豊かな自然に見守られ、抱かれているような、優しげな学校である。主アプローチは伸びやかにデザインされ、登下校時の楽しい触れ合いをイメージさせてくれる。校舎は中庭を中心に教室・特別教室などがコンパクトに配置され、小規模校に相応しいスケール感を与えている。教室と開放廊下の繋がりもよく独立性と賑わいがうまく両立しており、特に多目的ホールからのシークエンスの変化は楽しい。常に明るさと活気に溢れているこの学校は、コミュニティセンターとの合築によりこの地域の文化の核となっている。



< 作品賞 > 「みちのく風土館」





< 作品賞 > 岩手県市町村職員保健保養施設  
(ゆこたんの森)」



< 審査員特別賞 > 「中尊寺新讚衡蔵 (宝物館)」



< 審査員特別賞 > 「Haus (立木邸)」



< 審査員特別賞 > 「仙台市立坪沼小学校 坪沼  
コミュニティーセンター」

## 第21回東北建築賞(業績賞)選考報告

選考委員長 谷津 憲 司

「今日数寄屋の設計手法開発とそれによる一連の作品、  
普及活動」吉田イサム

洋風化している住まいの中で、現在の構法、材料で安価に、数寄屋の心を表現する手法として、「今日の数寄屋」を提唱し、その実践と普及に努めたことが高く評価された。

その手法は、1974年からの230件におよぶ、一連の作品に示され、1. 風土性の再認識、2. 心くばり(五感の働き) 3. 優しさ(あくまでも美しく) 4. 作法(秩序ともてなし) 5. 今日のまわりを見て(地球環境への提案)を主旨とし、その細目が具体的な手法として提案されている。図面、写真として提示されている17作品のレベルは高い。

また、普及においては、マイホーム関連テレビ番組のレギュラー出演が、29年間(650回)にも及び、住宅の設計を、「家づくりいろは48訓」などの工夫で分かりやすく解説し、多くの視聴者に支持され、その意識の向上にも努めた。東北地方の住宅の質的向上に貢献し、施主と建築家のパートナーシップを正しく伝えた意味も大きい。

提出された資料は、180頁余にも及び、氏のこれまでの設計、普及活動および設計思想を余すところなく示すものであり、審査委員の中からは出版を望む声が出たほどであった。

## 第11回東北建築作品発表会報告

常議員 吉田 藤 子

第11回東北建築作品発表会は、平成12年10月21日(土)仙台市のエルパーク仙台において開催された。発表件数は、第1部門の小規模建築物が9作品、第2部門の一般建築物が16作品の合計25作品にのぼった。また、発表者も東北管内だけではなく、広く各地からの参加が見られ、同発表会の全国的な関心の広まりを示しているといえよう。

作品発表会は、会場でのプレゼンテーションも審査の対象として加味されることになり、当日は、約100人の参加者が聞き入る中、活発で熱心な質疑応答が繰り広げられた。

開催にあたっては、日本建築家協会東北支部、東北各県の建築士事務所協会、建築士会、また東北建設業協会連合会、宮城県建設業協会中央広域協議会の各団体より後援をいただき、滞りなく実施された。

## 第20回東北建築賞(作品賞)表彰式及び展示会報告

常議員 吉田 藤 子

第20回東北建築賞(作品賞)表彰式は、平成12年5月27日(土)、仙台市上杉のろうふう会館において、東北支部総会に引き続き、多数の参加者のもとで開催された。

伊藤邦明選考委員長による審査講評に続き、大村虔一支部長より、作品賞4点の受賞者(設計者、施主、施工者)に賞状及び賞杯(設計者のみ) 審査員特別賞2点の受賞者に賞状が授与された。

その後、作品賞、審査員特別賞について、設計者から

スライドを使った作品紹介が行われた。

また、例年どおり、各受賞作品は東北建築作品展として、各支所においてパネルによって巡回展示された。東北における優れた建築作品を、幅広く一般市民の方々に知ってもらうため、今後も積極的に、各支所において実施をお願いしたい。

## 日本建築学会 作品選集 2001 東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 伊藤 邦明

8月1日に第1回支部審査会を開催し、応募点数13点から現地審査対象9点を選んだ。9月18日に出席審査委員6人にて第2回支部審査委員会を開き、Aランク1点、Bランク2点、Cランク3点の合わせて6点を選び、本部審査委員会に送ると同時に要項抵触の有無を確認することとした。この確認作業により、一点に竣工期日の要項抵触が判明したため、本部審査委員会に調査結果を報告した。9月28日の本部審査委員会において、結果的に支部推薦Bランクとした1点が選に入った。

掲載60作品の設計者を見ると建築の価値の多様化が云われて久しい。50が専業設計事務所、8がゼネコン設計部、2が両者共同である。いわゆる価値観が審査委員諸氏と専業設計事務所とは大方一致していることが分かる。そもそも建築の価値とは多様性を内包しているものであり、見る人、使う人によって評価が変わってくるものである。それにもかかわらず専門家の間で、ある討議を経れば評価が収束するというのは、時代は変わっても、建築の本質的価値というものが、同時代を生きる人々にとって、共通のものであることを示してはいないであろうか。我々の選んだものが後世今の時代の指標になりうることを願うばかりである。

## 2000年度日本建築学会設計競技東北支部審査報告

審査委員長 舩岡 和夫

本年度の課題は、「新世紀の田園居住」。審査は、2000年10月13日に支部会議室で、成瀬恵宏、野村希晶、二郷精、吉田藤子、舩岡和夫が行った。応募数は9点。

まず審査委員各人が、全作品を詳しくみて、各人の規準を披瀝しながら各作品毎の評価を表明。応募数の1/3に相当する支部入選候補3点を選んだ。

そのなかで農村の現実を知り、現地踏査で地域で打ち棄てられた資源をも新鮮な眼で発掘し、地域住民がそこに住むことを誇りにすることこそが不可欠という視点からの、東京大学大学院田中大朗君の『田園を愛で、田園に住む』をまず全員一致で支部入選とした。次に、生業を共有するなかでの新住民と旧住民の共生とそこに至るまでの行動計画を提示する、芝浦工業大学大学院畔上順平君の『生業の生態系を作る』を加えた。しかし、後者に類する3点のうち1点は、主旨パネルの評価が高かったものの、具体化された空間の魅力が乏しく選からまれ

た。他は、堤防に埋め込まれた週末住宅。音楽家の家。離れに寄寓。地下鉄で都市機能を結ぶ。母屋に依存する一棟一室住居。茶を軸とするミニ住宅開発がテーマ。いずれも農村・田園を楽しむ知恵・技の貧しさが目立った。

したがって参加希望者に、農村体験の機会を設けてはどうかとの成瀬の提案は、特筆しておきたい。なお、支部入選の2点はいずれも全国審査で入選に至らなかった。

## 2000年度東北支部研究報告会

常議員 植松 康

2000年度東北支部研究報告会は、2000年6月17日(土)に東北芸術工科大学(山形市)を会場として開催された。午前9時30分より4会場に分かれ、講演1題10分(発表7分、質疑3分)の持ち時間で、熱意ある報告と活発な討論が為された。

発表論文の総数は149題であった。過去5年間の推移を見ると、96年111題、97年120題、98年120題、99年133題であり、年々増加の傾向を示し、支部における研究活動の活発化を表している。大学院進学率の向上等により、発表題数は今後も益々増えるものと予想され、研究発表の場としての支部研究報告会の重要性がより一層高くなるものと考えられる。

今年度の発表論文149題の分野別内訳を見ると、歴史・意匠15題(昨年度10題)、都市計画・地域計画・住宅問題21題(同15題)、建築計画14題(同29題)、環境工学50題(同31題)、材料・施工19題(同24題)、構造30題(同24題)で、特に環境工学分野の発表題数の増加が目立つ。これらの論文は「日本建築学会東北支部研究報告集第63号」(「計画系」と「構造系」の2分冊)に収録・刊行された。2000年度より報告集が2分冊となったが、上述のように、環境工学分野の発表題数が大幅な伸びを示したため、計画系の論文集がかなり厚くなってしまい、3分冊にしたらどうかとの意見も聞かれた。この問題については、今後常議員会で審議されることになっている。

全ての論文発表終了後、午後5時30分より約1時間半、会場のキャンパス内で懇親会が催された。約30名の参加があり、和やかな歓談の場となった。なお、本研究報告会の開催準備に当っては、東北芸術工科大学の相羽教授にご尽力頂きました。ここに記して感謝の意を表します。

## 2000年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員 浅里 和茂

日時：2000年5月27日(土) 午後1時より

場所：ろうふく会館(仙台市青葉区上杉1-5-13)

出席者：大村虔一支部長以下27名

西野敏信常議員の開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。



## 1. 出席者数および委任状の確認

出席者 27 名、委任状 62 通、合計 89 の確認があり、東北支部会員 1490 名の 1/30 (49 名) 以上にあたるため、本総会が成立することが確認された。

## 2. 支部長挨拶

大村虔一支部長の挨拶があった。

## 3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、近江隆氏および井上範夫氏が選出された。

## 4. 議事

東北支部規程により、大村虔一支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

### (1) 1999 年度事業報告

三浦金作常議員より、資料 No.1 の支部年報 16 および 17 ページの「1999 年度事業報告」にもとづき 1999 年度事業が報告され、承認された。

### (2) 1999 年度収支決算報告

土方吉雄常議員より、資料 No.2 の 1 および 2 ページの「1999 年度日本建築学会東北支部財産目録」および「1999 年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづく 1999 年度収支決算が報告され、承認された。

### (3) 会計監査報告

高橋純一監事より、資料 No.2 の 3 ページの通り 1999 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告され、承認された。

### (4) 2000 年度事業計画 (案) について

野村希晶常議員より、資料 No.1 の支部年報 18 および 19 ページの「2000 年度事業計画 (案)」にもとづき 2000 年度事業計画が資料の訂正を含めて説明され、以下の質疑応答の後、承認された。

#### ・資料の訂正

支部研究助成金による研究 環境部会 地方計画部会  
支部主催、支部共催イベント 第 21 回東北建築賞作品展示会 第 20 回

#### ・質疑応答

支部ニュースの WEB 化を事業計画上の広報として、位置づけるべきではないか。

ご指摘の通り、位置づけを明らかにする。

代議員が転勤により支部を離れた場合、次点の方の繰り上げ当選となるのか。

本部事務局に問い合わせた上、回答する。

### (5) 2000 年度日本建築学会東北支部収支予算書 (案) について

滝田貢常議員より、資料 No.1 の 4 ページの「2000 年度日本建築学会東北支部収支予算書 (案)」の説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

#### ・質疑応答

支部事務所費が増額となっているが、これにはどのように対処するのか。

会議などで、ホテルを借りていた分が削減でき、さらに、支部法人会員、賛助会員を増やすことで対処したい。

## 研究部会活動報告

### 歴史・意匠部会

部会長 飯淵 康一

2000 年度の日本建築学会大会は東北支部の担当であったが、9 月 8 日から 10 日までの 3 日間、郡山の日本大学を会場として行われた。建築歴史・意匠部門の研究協議会のテーマとして本部会が提案した『家屋文鏡再読』が採用されたので、部会員はこれに全面的に協力することになった。研究協議会の当日は、飯淵(東北大学)が主旨説明を行い、永井、吉田(東北大学)が記録を担当した。司会、副司会を藤井恵介(東京大学)、佐藤浩司(国立民族博物館)の両氏にお願いし、建築史、古代史、考古学の各分野から第一人者をパネラーとしてお招きした。それぞれから興味深い話題が提供され、また会場からも多くの質問が寄せられ、活発な議論が展開された。家屋文鏡を学際的な観点から検討する意義深い協議会となった。

2001 年 1 月 27 日には、研究協議会のパネラーの一人同志社大学歴史資料館助教授の辰巳和弘氏をお招きし、最近の発掘成果で大きな反響を呼んだ出雲大社についての講演会を開催した。会場は学会東北支部会議室であったが、休日であったにもかかわらず多くの部会員が参集した。古図に違わない太い柱跡が発掘されたこと、そしてその年代は鎌倉期のものである可能性が高いこと、さらには出雲大社に留まらず古代の高床式の建築にまで話が及び、建築史・意匠を専門分野とする我々にとって非常に興味深い会となった。終了後、同氏を囲む懇親会を催した。当日の仙台はあいにくの雪空であったが、病み上がり身の身にもかかわらず京都からお越しいただいた辰巳先生にこの場をお借りして感謝の意を表したい。

### 建築計画部会

部会長 若井 正一

本年度の建築計画部会の活動は、本学会の建築計画本委員会主催の 2000 年春季学術研究会が 7 月に仙台市で開催され、引き続いて 9 月には 2000 年度本学会大会が東北(郡山市・日大工学部)で開催されるなど、大きなイベントが実施されたことから、積極的な事業の展開ができなかった。そこで、2000 年春季学術研究会および同大会における本部会に関連する内容の一部を報告する。本年度の春季学術研究会は、菅野前部会長(東北大)を中心とした企画であったが、「施設型の可能性を開く(情報時代における『施設』の意味)」というテーマで 7 月 7 日～8 日の 2 日間に渡り開催された。第 1 日目は、「宮城県図書館」と「せんだいメディアテーク(建設中)」の見学会と懇親会(秋保温泉)であった。第 2 日目は、第一部が前述の建物の設計者である原 広司、伊東豊雄の両氏を招いた設計をめぐる対談、第二部が「21 世紀の図書

館（情報施設に求められるもの）」と題するパネルディスカッションであった。両日とも大勢の参加者に恵まれ、囲み型のステージでは熱気ある論議が交わされた。

さて、大会における当部会に関連する特別事業として、市民向けの記念シンポジウム「子どもの夢、おとなの夢」が、仙田満本会副会長らを中心に9月7日に開催された。同会場は、本年度の日本建築学会賞（作品）を受賞したビッグパレットふくしま（郡山市）であった。この他にも大会では、関連する数多くの研究協議会が開催されたが、詳しくは建築雑誌を参照されたい。次年度は、本部会主催の見学会や研究会などを積極的に展開する所存である。最後に、本年度当部会から推薦した東北建築賞関連の各種委員会の委員は、作品賞が菅野（前掲）、研究奨励賞が小野田（東北大）および青木（宮城高専）、業績賞が谷津（東北工大）の各氏であったことを付記する。

## 地方計画部会

部会長 相羽 康 郎

本年度は支部研究助成金も頂き、東北地方のまちづくりの現場からとして、主に都市計画行政の立場から、今後のまちづくりの方向性について検討を行った。

具体的には都市計画学会 50 周年研究小委員会との共催として、南東北3県と、北東北3県に分けて、それぞれワークショップを仙台と盛岡で開催した。

このワークショップを通じていくつかのテーマが明確になってきた。すなわち、まちづくりという住民参加型の地区レベルの活動と、都市計画という市町村が主として事業として実施する活動が、あまり噛み合っていない現状があること。本来大局的戦略的な市町村全体の計画を、首長主導のもと議会などの開かれた場で検討しつつ決定・変更する必要があること。検討を十分に行うためには法的に拘束力のないマスタープランとして住民参加のもと合意する段階が必要であること。住民参加で作成しやすいのは地区レベルの計画方針であり、都市計画事業の体系的な方針など全市的な方針については別途専門家など外部に開かれた戦略作成の場が必要であること。しかしその過程および結果を、マスタープランの段階で住民に周知し理解される必要があること。都市計画が事業先行で計画が後手に回らないように、マスタープランで打ち出された計画的な方針に合わせて事業の優先度が決定される必要があること。などであった。

また、それぞれにユニークなまちづくりを行っている多くの市町村が東北地方にあることから、現在支部助成研究のとりまとめとして、各市町村のまちづくりの特徴を紹介する作業を継続中であり、近くその成果を何らかの形にして公表する予定である。

## 構造部会

部会長 小川 淳 二

本年度、当構造部会では1998年6月に公布された建

築基準法改正に関する議題について2回の部会を開催し、その内容や考え方、各所での対応に関する情報交換および意見交換を行った。

2000.10.6に開催された第1回の部会では、木村一彦委員（仙台市役所）から「建築基準法改正の現状」と題して、基準法施行令のうち構造関係規定の改正の骨子とそれに対応する告示等に関する情報提供がなされた。また、法運用に対する役所での準備状況などが説明され、法改正全般について部会内で意見交換がなされた。その結果、今後当部会として今回の法改正に関する実務者側からの情報が必要であるとの方向性が示された。

第1回の部会で実務者側からの情報が必要とされたが、現時点において実施物件は皆無に近いことから、2001.1.12に開催された第2回の部会では、今回の法改正により新しく導入された「限界耐力計算」などが議題とされた。

第2回の部会では「性能設計法について」と題して、柴田明德委員（東北文化学園大学）から「限界耐力計算」を骨子とする耐震設計関連規定の導入の背景からその考え方、関連する研究や海外の規定などが説明された。また、益野英昌委員（仙台第二工業高等学校）からは性能設計に関する文献調査結果が示された他、積雪荷重と風荷重に関する規定も説明された。

以上のように本年度当構造部会では建築基準法の改正と性能設計に関する2回の部会を開催し、今後これらに対して当部会がなすべき事柄について意見交換を行った。

## 環境工学部会

部会長 内海 康 雄

平成12年度の活動の概要は以下の通りである。

### 1. 部会開催

部会の会合は、計5回開催された。4/28第1回（宮城高専）、6/12第2回（東北支部）、10/12第3回（宮城高専）、12/14第4回（東北文化学園大学）、3/21第5回（東北支部）である。

具体的に活動を企画・実行すると共に、部会からの関係分野への情報発信などの働きかけの方策などについても検討した。本年度の研究事業テーマは「建築の省エネルギー計画に関する調査研究」であり、前年度の東北地方諸都市の省エネルギー対策に関する資料を基に討論した。また大会が日本大学（郡山）で開催されたので、日大のスタッフを中心に大会運営への協力を行い、部会員が多数参画して環境工学(2)・地球環境部門研究協議会「都市環境のクリマアトラス」を開催した。

### 2. 研究会

委員の話題提供1回(12/14)と環境設備研究会4回の計5回開催した。参加者は10~90名程度であった。内容は、6/23第29回東北環境設備研究会「気候・風土を考慮した伝統的建築技術の再評価と現代建築への適用」、8/23第30回東北環境設備研究会「国際ワークショップ」:

中国における住宅・都市環境とエネルギー消費量」、12/4 第 31 回東北環境設備研究会「室内環境と人体周辺の微気象 - 化学物質汚染防止の観点から -」、12/14「室内の VOC について」野崎淳委員(東北文化学園大学)、3/26 第 32 回「都市環境におけるクリマアトラスの利用 地域気候特性を活かした都市環境計画」である。いずれも活発な意見や質問があり、成果が挙げられたものと考えられる。

### 3. 見学会

県内外を含めて計 4 回行われた。4/20 アクアマリンふくしま、10/12 宮城工業高等専門学校新校舎、11/22 メディアテーク、12/14 東北文化学園大学であり、多数の参加者があった。

## 材料部会

部会長 出村 克宣

1999 年度より、「新たな建築材料学教育のための調査研究」を目的として、建築材料学教育やそのための教材のあり方、日本技術者認定制度に対する本学会の取組みのあり方などについて検討した。材料部会の開催が少なかつたこともあり、具体的な成果物を作成するには至らなかつたが、情報機器などを駆使した教育及び地球環境問題を見据えた材料学教育の必要性や、よりビジュアルな情報を盛り込んだ教材の必要性などが指摘され、今後の本部会活動の一環として、そのような教育システムの提案、教材の作成などを行って生きたいと考えている。

又、日本コンクリート工学協会東北支部、ICPIC(コンクリート・ポリマー複合体国際会議)日本支部ポリマーズ・イン・コンクリート委員会との共催で、イスラエルのテクニオン・イスラエル工科大学 Arnon Bentur 教授を招聘して“Early Age Shrinkage and Cracking in High Strength Concrete”と題する特別講演会を実施し、高層鉄筋コンクリート造建築物に最近多用されつつある高強度コンクリートの基礎性状及びその問題点などについての情報交換を行った。

## 施工部会

部会長 田代 侃

2000 年度は「建築施工における環境負荷低減」をテーマとして、第 98 回～第 101 回施工部会を開催した。施工部会が 1983 年に設置されて 18 年になり、部会も第 100 回を迎えたので、ささやかな記念行事を行った。

### 1. 第 98 回施工部会(6 月 28 日、支部会議室)

- (1) 1999 年度活動報告および決算報告
- (2) 2000 年度事業計画および予算
- (3) 建築施工における環境負荷低減に関する各社の取り組みについて

井上、倉持、大川、富樫、鈴木各委員の報告

### 2. 第 99 回施工部会(10 月 26 日、東北工業大学)

- (1) 東北工業大学ハイテクリサーチセンターにおける資源循環型社会実現のための戦略的研究の紹介と見

学

- ・建築廃材等の再利用のための性能評価及び新材料への応用に関する研究(平井和喜教授)
- ・自然エネルギーを有効利用した建築空間のための新材料・構法に関する研究(田代 侃助教授)
- ・水・土壌圏の生態系機能強化による環境浄化に関する研究(江成敬次郎教授)

### (2) 第 100 回記念施工部会の計画

### 3. 第 100 回記念施工部会(12 月 12 日、ろうふく会館)

- (1) 講演 施工部会の設立趣旨と今後の役割

東北大学名誉教授 内山和夫

- (2) 討論 施工部会の活動方針と研究テーマについて

- (3) 第 100 回施工部会記念パーティ

### 4. 第 101 回施工部会(2 月 20 日、支部会議室)

- (1) 講演 産業廃棄物の適正処理の推進について

仙台市環境局産業廃棄物指導課

大沢 係長

- (2) 2001 年度支部研究補助費申請および研究成果物の構成案について

## 建築デザイン教育部会

部会長 伊藤 邦明

建築デザイン教育の変革に関する論議は、ここ数年に渡って続いているが、その議論は相変わらず実現性に乏しい理想論が多いといわなければならない。国際的に通用する技術者のための教育とは、いまや誰も拒否できないキーワードとなっているが、設計者教育の分野となると、まことに歯切れの悪い話となる。そもそも工学部の枠内でデザイン教育など本質的には不可能なことは過去 40 年に渡るこの種の議論で明らかになっているにも拘わらず、延々と続けられているのは、諸外国の目から見れば相当に奇異に映ることは疑いがないであろう。国際的に通用する技術者という枠内で、本年度より試行作業がスタートする JABEE の影響がどのようになるか、教育体制全般の改変にどのように繋がるか、興味のあるところである。デザイン教育に直接携わる教員の集まりである本部会としては、JABEE に対する設計プログラムの作成に当たっては、その中心的役割を果たし、建築学会案の骨子がそれにより纏められた(建築学会ホームページ参照)。また、2000 年 10 月にはドイツ国、ライネフェルデ市のゲルト・ラインハルト氏を招き、清水建設・澤田誠二氏、郵政省・南一誠氏、宮城県住宅供給公社・千葉勝彦氏、福島県都市計画課・村井弘道氏、東北大学・マリノ・カトフ氏らのパネラーを迎え、「日欧団地再生コイロキウム 2000」を本部会主催により、東北大学青葉記念館で開いた。第 2 次大戦後大量に建設された住宅の多くが、二戸一階段の使い悪さや、エレベーターの不備など、時代にそぐわない機能性の欠如、或いは老朽化といった問題を抱え、その解決のためのための研究、次代を次ぐべき後継者の育成、なかんずく大学での住宅デザイン教育の重要性が指摘された。



## 支所だより

### 青森支所

支所長 松代 眞

2000年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

先ず、6月に幹事会を開催し、今年度の事業計画等について検討し「全員協議会」、「東北建築賞受賞作品展示会」及び「親と子の建築講座」の開催を決定しました。7月には恒例の全員協議会を開催し、幹事会で決定しました事業計画等を報告し、会員に協力をお願いするとともに親睦を深めたところであります。

また、9月には県立弘前工業高等学校との共催で「親と子の建築講座～弘前を知る～文化遺産のたてものを訪ねて」を開催したところ、52名の親子の参加をいただき、郷土弘前を再発見するなど好評のうちに終了することができました。

2001年度も引き続き、この講座を開催し多くの子供たちに建築の持つ魅力などを伝えていきたいと考えております。

さらに、2月には室蘭工業大学地域共同開発センターの後援により「配管材料の腐食特性と最近の配管材料開発」と題し講演会を青森市内で開催し、好評を博したところであります。

今後とも、関係団体との連携を図りながら支所活動を進めて参ります。

### 秋田支所

支所長 呉 祐一郎

2000年度の秋田支所の活動報告について報告いたします。

例年、本支所主催で県や関係団体の後援を得て実施しております県内の工業高校、建築専門学校等の学生や生徒を対象とした建築設計作品コンクールも回を重ね、29回を数える事になりました。

今年度も県内各地の高校、専門学校から7校23点の応募があり、応募された作品は、少子高齢社会や地球環境に配慮された社会情勢に敏感に反応した作品も見受けられ、建築物の持つ社会的な役割を十分に身につけていることに感心させられました。

審査の結果、優秀な作品に対して知事賞や建築学会支部長賞等が授与されるとともに、提出された作品を平成13年3月2日から6日まで、秋田アトリオン「けんみん住宅サロン」に於いて展示し、広く県民の方々に紹介いたしました。

2001年度は当コンクールも30回目の節目を迎え、支所事業としても記念になる催しとなるよう考えております。

また、第20回東北建築賞作品展を同会場において平成13年3月9日から20日まで開催したところ、多数の来場をいただき好評を得ました。

特に今回は受賞6作品中3作品が当支所管内に建築された物であり、県内建築関係者の意欲高揚に役立つ展示となりました。

今後とも、関係団体や平成11年に開学した県立大学との連携を深め、支所活動を進めて参りたいと思います。

### 岩手支所

支所長 鍋倉 孝行

2000年度の岩手支所の活動計画について報告します。

今年度の活動としては、支部事業「親と子の建築講座」岩手会場「CADを用いた夢の空間設計体験」と題して、昨年度に引き続き、10月28日に県立産業技術短期大学校において親子24名の参加により実施しました。

今年度は、より建築に親しんでもらうよう、ソフトを充実し、受講者をデジカメで撮影し、描いた住宅の中を歩く模擬体験を行い、参加者には大変好評でした。

また、例年後援しております盛岡市主催の「第24回盛岡市景観シンポジウム」が11月17日にプラザおでつにおいて200名の参加者を集めて開催されました。

都市景観賞の表彰の後「市民の心を育むまちづくり」についての講演と、昨年に引き続き「まちの肖像画～もりかの「橋と景観」を考える～」と題したパネルディスカッションを開催、市内を流れる二つの川とそれに架かる橋を通じて、まちの景観を考える討論が行われました。

さらに、2月には本支所の恒例事業となっている「第31回県下工業高校卒業設計作品コンクール」を岩手県公共建築設計監理協会と共催で実施し、県下4校、13件の応募の中から支所長賞の選定を行い、久慈工業高等学校建築科及び3年生の下平輔君に賞状と記念品を送るとともに、第20回「東北建築賞受賞作品展示会」をプラザおでつにおいて開催し、好評を博したところです。

当支所では、今後とも機会をとらえて学会と地域社会との交流を図る諸事業を開催していきたいと思っております。

### 山形支所

支所長 渡辺 道明

2000年度の山形支所の活動状況について報告いたします。

12月中旬、山形駅西口地区に建設された新都心ビル「霞城セントラル」の完成見学会を行いました。山形支所の会員を中心に24名の参加をいただきました。講師は、同ビルの設計・監理に携わった(株)日建設計の小比賀一史、長谷川巖両氏にお願いし、計画、施工上のポイントなど生きた話を聞くことが出来ました。また、そのあとビル内を説明を加えて案内いただきました。2001年1月1日にミレニアムオープンした同ビルは、24階建

てで山形の新しい風景をつくっています。

1月上旬には恒例となりました「東北建築賞受賞作品展示会」を東北芸術工科大学で開催し、建築を学ぶ学生をはじめ多数の方々のご来場をいただきました。

来年度は「親と子の建築講座」を2年振りに開催する予定としております。これまで実施していた住宅模型づくりに代わり、3次元CADによるウォークスルーアニメーションの体験など子供たちに喜んでいただける楽しいものになるように検討しております。

今後とも、関係団体の協力をいただきながら、支所活動を進めていきたいと思っております。

## 福島支所

支所長 宗像武久

福島支所は、「優れた建築との接点」そして「親しまれる学会」を基本的な姿勢として、2000年度も活動して参りました。また今年度は、県内で活躍されている建築家の建築を創造するまでの過程、建築に対する基本的な考え方や設計のプロセスを学会会員に限らずより多くの方々伝えることをテーマとして事業を行ってまいりました。

まず、6月に「建築に親しむ環境講座」と題して、阿部直人さんを講師に、設計における建築主（施主、設計依頼主）と設計者のコミュニケーションの方法等について、模型や写真等を持参いただき具体の事例について説明いただきました。また、講座の後半は模型づくりのプロフェッショナルである佐藤実さんと富樫龍男さんを講師に、建築家のたまごである県内の高校生から設計事務所の若手職員の方々を対象に、模型づくりの楽しさやその作成過程を実践していただきました。作成者自らの発表会も行い、終了予定時刻を大幅に上回る活況でありました。

次に、年度終盤の2001年3月には、東北建築賞「作品賞」のパネル展とともに福島県内の作品で受賞された隈研吾さんを招き、隈氏の建築に対する想いを作品の紹介とともに講演いただき、さらに県内の建築家3名（吉田栄光さん、安藤正道さん、清水公夫さん）と進行に当支所事務局の村井君を加えた5名による座談会（建築トークバトル）を行いました。建築に対する姿勢への相通ずる想いの発言や他の建築家との考え方の違いについて「そこまで言う」過激発言が飛び出し、胸ときめく、新風に包まれた会場となりました。

2001年度も、基本姿勢を崩さず県内、県外のより多くの方々に参加していただけるよう各種事業を企画いたしますのでご期待下さい。

## 常議員会から

常議員 野村希晶

常議員会は、総会に次ぐ支部の意志決定機関で、支部長と選挙により選出された14名の常議員で構成され、必要に応じ、支部長より任命された若干の企画運営委員・監事・支所長及び事務局の出席を得て開かれる。昨年度までは、原則として月1回開催されていたが、本年度より、重要議案の少ないと予想される月の常議員会については、これをメーリングリストを用いた「ネットワーク会議」によるものとした。ただし、常議員会に先立つ総務会（支部長と総務・企画担当常議員で構成される）は例年通り毎月行い支部運営に支障をきたさないようにした。

ネットワーク会議は効率的な支部運営をねらうと同時に、支部の財政運営上で旅費の低減をはかったものだったが、予想通り大幅な削減があった。ネットワーク会議でもこれまでと同等の会議内容が保たれたので、次年度以降もこの会運営方法が継承されてゆくと思われる。

また、この常議委員会の議事録については2000年6月のものより支部のWEBで公開するようにしたので、これまで年報で要約だけが掲載されていたのに比べ、詳細が比較的即時性をもってで見られるようになったと思われる。支部の情報提供形態がこの年報も含めデジタル化、ネットワーク化しており、ここに掲げる意味も薄らいでいるので、詳細はWEBの議事録のページにゆずり、要点のみをまとめる。

本年度の支部の主な課題は、

- (1) 財政問題：ここ数年来の継続事項であるが、賛助会員の減少には歯止めがかかったものの引き続き減少することがないようにすること、および経費節減に努めること。
- (2) 支部活性化：事務局が良好な環境に移転したことも契機として、支所活動活性化、法人・賛助会員へのサービス向上、支部会議室の活用、など改善の余地がある事業の見直し、あるいは新しい事業の掘り起こしはかること。
- (3) 東北建築賞の整備：昨年度に引き続くが、今年度は業績賞も含め、(2)に関連させて見直しをはかること。

(4) 建築学会大会（郡山）を成功裏に開催すること。

以下は今年度（1月～5月は昨年度）の常議員会の主な議題の一部である。

- [1月]日本建築学会文化賞候補業績推薦、「親と子の建築講座」計画案、「作品選集2001」の委員選定
- [2月]事務所移転計画、東北建築賞研究奨励賞選定方法案、支部年報20号発刊計画
- [3月]支部総会企画、新任委員役割分担、東北建築賞募集要項、東北建築賞研究奨励賞審査基準、部会新設（建築デザイン部会）要請
- [4月]2000年度支部共通事業設計競技支部審査員選定、第21回東北建築賞募集要項、支部総会準備、2000年度日本建築学会大会（東北）準備状況、東北建築賞研究奨励賞選定方法案
- [5月]新旧役員紹介、支部研究報告会準備状況、東北建築賞内規案、事務職員待遇改正案
- [6月]総会報告、支部研究会報告、建築デザイン部会新設、支部会議室利用規定、ネットワーク常議員会新設
- [7月]ネットワーク会議]特色ある支部活動事業計画
- [9月]「作品選集2001」支部選考結果、司法支援会議会員候補者推薦、2001年度支部研究報告会、2000年度日本建築学会報告
- [10月]ネットワーク会議]設計競技支部審査会結果報告、2001年度日本建築学会文化賞候補、第11回東北建築作品発表会報告、2001年度日本建築学会文化賞候補者の推薦、特色ある支部活動事業計画案
- [11月]2001年度支部総会日程、2000年度建築学会大会決算報告
- [12月]支部WEBサーバーの移行、東北建築賞業績賞改正案、作品選集支部審査員選出方法
- [2001年1月]ネットワーク会議]支部年報21発刊のPDF化と発行計画、作品選集支部審査員選出方法決定、東北建築賞作品賞選考方法内規、同研究奨励賞選考方法内規、同業績賞選考方法内規
- [2月]吉田委員異動に伴う新常議員鹿戸明氏、「作品選集2002」支部審査員、東北建築賞業績賞決定報告



## 支部役員名簿

### 東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役割	2000年度 (2000年6月~2001年5月)	2001年度 (2001年6月~2002年5月)
支部長	岩崎 博(日本大学)	岩崎 博(日本大学)
総務 企画	野村 希晶(東北大学)	浅里 和茂(日本大学)
	浅里 和茂(日本大学)	渡邊 浩文(東北工業大学)
	渡邊 浩文(東北工業大学)	永井 康雄(東北大学)
社会 文化	濱田 幸雄(日本大学)	二郷 精(設計集団空)
	吉田 藤子(東北地建)	鹿戸 明(東北化学園大学)
	二郷 精(設計集団空)	高島 成侑(八戸工業大学)
学術 教育	谷津 憲司(東北工業大学)	橋本 典久(八戸工業大学)
	植松 康(東北大学)	松本 真一(秋田県立大学)
	橋本 典久(八戸工業大学)	沼野 夏生(東北工業大学)
会計 会員	滝田 貢(八戸工業大学)	鈴木 利夫(JR東日本)
	鈴木 利夫(JR東日本)	相沢 清志(仙台市)
図書 情報	千葉 正裕(日本大学)	八町 雅康(日本大学)
	武 修司(仙台市)	持田 灯(東北大学)
	八町 雅康(日本大学)	Sanjay PAREEK(日本大学)
企画 運営 委員	細田 洋子(仙台市)	細田 洋子(仙台市)
	鹿戸 明(東北化学園大学)	櫻井 宏(宮城高専)
事務局	坂本 章子	坂本 章子

\*1 2001年1月6日まで \*2 2001年1月7日から

### 研究部会長

研究部会	部会長(2001年度)
構造	小川淳二(秋田県立大学教授)
材料	出村克宣(日本大学教授)
建築計画	若井正一(日本大学教授)
地方計画	相羽康郎(東北芸術工科大学教授)
歴史意匠	高橋恒夫(東北工業大学教授)
施工	田代 侃(東北工業大学助教授)
環境工学	内海康雄(宮城高専教授)
デザイン教育	伊藤邦明(東北大学教授)

### 東北支部会員数(2001年4月23日現在)

名誉会員	1名
終身会員	39名
正会員(個人)	1,375名
正会員(法人)	100法人
準会員	19名
賛助会員	16法人

### 東北支部監事

2000年6月~2001年5月

高橋純一(鉄建建設(株)東北支店)

土方吉雄(日本大学)

2001年6月~2002年5月

土方吉雄(日本大学)

滝田 貢(八戸工大)

### 東北支部選出代議員

任期	代議員
1999年11月 ~ 2002年3月	井上 範夫(東北大学教授) 黒田 浩司(日本大学教授) 志田 正男(東北工業大学教授) 吉田利喜雄(JR東日本(株)事業部課長)
2001年4月 ~ 2003年3月	遠藤 延安(仙台市都市整備局都市計画課長) 小川 淳二(秋田県立大学教授) 出村 克宣(日本大学教授) 寺本 英治(国土交通省東北地方整備局営繕部長)

### 支所長

支所	支所長(2001年度)
青森支所	松代 眞(青森県土木部営繕課長)
秋田支所	呉祐一郎(秋田県建設交通部建築住宅課長)
岩手支所	鍋倉孝行(岩手県土木部建築住宅課建築指導監)
山形支所	鈴木紘一(山形県土木部建築住宅課長)
福島支所	宗像武久(福島県土木部参事)

日本建築学会東北支部	<b>2000 年度事業報告</b>	自 2000 年 4 月 1 日 至 2001 年 3 月 31 日
------------	--------------------	---------------------------------------

## &lt; 事務の部 &gt;

総 会	1. 1999 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2000 年度事業計画・予算案 3. その他（出席者 89 名、委任状含）	2000 年 5 月 27 日 ろうふく会館
諸 会 合	総会(1)、常議員会(11)、支所長会議(1)、東北建築賞作品賞選考委員会(3)、東北建築賞業績賞選考委員会(1)、設計競技審査会(1)、選挙管理委員会(1)、作品選集選考委員会(2)、研究部会連絡会(1)	( )は回数
代議員半数改選	(留)近江 隆、春日井秀明、倉田光春、最知一裕 (新)井上範夫、黒田浩司、志田正男、吉田利喜雄	1998 年 11 月～2001 年 3 月 1999 年 11 月～2002 年 3 月
支 部 長 改 選	(新)岩崎博	2000 年 6 月～2002 年 5 月
常議員半数改選	(留)植松 康、滝田 貢、武 修司、千葉正裕、野村希晶、濱田幸雄、谷津憲司 (新)浅里和茂、鈴木利夫、二郷 精、橋本典久、八町雅康、吉田藤子、渡邊浩文	1999 年 6 月～2001 年 5 月 2000 年 6 月～2002 年 5 月
企画運営委員	細田洋子、鹿戸 明、櫻井 宏	2000 年 1 月～12 月
監 事	高橋純一、土方吉雄	2000 年 6 月～2001 年 5 月

## &lt; 支部事業 &gt;

研究委員会	[ 部会名 ][ 部会長 ] [ テーマ名 ] 構 造：小川淳二 耐震補強の技術向上を考える 材 料：出村克宣 新たな建築材料学教育のための調査研究 建築計画：若井正一 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画：相羽康郎 高齢化社会のまちづくりを考える 歴史意匠：飯淵康一 家屋文鏡再読 環境工学：内海康雄 建築の省エネルギーに関する調査研究 施 工：田代 侃 新素材と施工技術の研究 環境デザイン：伊藤邦明 建築設計教育の充実を世界的観点から再調査する	
支部研究助成金による研究	地方都市におけるまちづくりの現場から 地方計画部会（研究代表者 増田 聡）	2000 年 4 月～2001 年 3 月
支部研究発表会	2000 年度東北支部研究発表会、研究報告集第 63 号刊行、 発表題数 149 題	2000 年 6 月 17 日 東北芸術工科大学
支部主催、支部共催イベント	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 「建築を思う環境講座」(福島市) 2) 第 11 回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市) 出品 25 点 3) 第 21 回「東北建築賞」の選考 作品賞 3 点、審査員特別賞 3 点 2. 支部共催 1) 親と子の建築講座 郡山会場「建築のひみつ『かたちとつよさ』」 仙台会場「宮町たんけんワークショップ」 弘前会場「文化遺産のたてものを訪ねて」 盛岡会場「CAD を用いた夢の空間設計体験」	2000 年 6 月 24 日 福島市民会館  2000 年 10 月 21 日 エルパーク仙台 2001 年 1 月 16 日  2000 年 8 月 5～6 日 2000 年 11 月 24 日 2000 年 9 月 9 日 2000 年 10 月 28 日

	2) 第 20 回東北建築賞作品展 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市	2000 年 10 月～2001 年 3 月
研究部会主催 事業	(事業多数、各研究部会活動報告参照)	
表彰	1. 第 20 回東北建築賞 作品賞 4 点、審査員特別賞 2 点 2. 支部功労会員 なし	
支所活動	青森支所 1) 全員協議会 2) 第 20 回東北建築賞作品展(八戸市) 3) 親と子の建築講座「広前を知る - 文化遺産のたてものを訪ねて」(青森市) 秋田支所 1) 役員会 2) 第 29 回建築学科生徒による建築設計作品コンクール(秋田市) 3) 第 20 回東北建築賞作品展(秋田市) 岩手支所 1) 親と子の建築講座「CAD を用いた夢の空間設計体験」(盛岡市) 2) 第 20 回東北建築賞作品展(盛岡市) 3) 第 27 回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 4) 第 31 回県下工業高校設計作品コンクール 山形支所 1) 第 20 回東北建築賞作品展(山形市) 福島支所 1) 第 20 回東北建築賞作品展(郡山市) 2) 作品展記念講演会(郡山市) 3) 親と子の建築講座「建築のひみつ『かたちとつよさ』」(郡山市)	2000 年 10 月 2000 年 9 月  2001 年 2 月 2001 年 3 月  2000 年 10 月 2001 年 2 月 2001 年 2 月 2001 年 2 月  2001 年 1 月 2001 年 2 月 2001 年 2 月 2000 年 8 月
刊行活動	支部年報第 20 号発行 東北支部研究報告集第 63 号発行 東北建築作品集(第 11 号)発行	2000 年 5 月 26 日 2000 年 6 月 17 日 2000 年 10 月 21 日

## &lt; 支部共通事業 &gt;

講習会	1) JASS8 防水工事改定並びに関連指針講習会	2000 年 7 月 13 日 ろうふく会館
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市	2000 年 9 月～10 月
審査会	1) 2000 年度支部共通事業日本建築学会設計競技 テーマ:「新世紀の田園居住」 応募数 9 点・支部入選 2 点	2000 年 10 月 13 日



日本建築学会東北支部

## 2001 年度事業計画 (案)

自 2001 年 4 月 1 日  
至 2002 年 3 月 31 日

## &lt; 事務の部 &gt;

総 会	1. 2000 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2001 年度事業計画・予算案	2001 年 5 月 26 日 ハーネル仙台
諸 会 合	総会(1)、常議員会(11)、支所長議会(1)、東北建築賞選考委員会(4)、 設計競技審査会(1)、選挙管理委員会(1)、作品選集選考委員会(2)、 研究部会連絡会(1)	( )は回数
代議員半数改選	(改 選)井上範夫、黒田浩司、志田正男、吉田利喜雄 (非改選)遠藤延安、小川淳二、出村克宣、寺本英治	2002 年 3 月改選 2003 年 3 月改選
支 部 長 改 選	(改 選)岩崎博	2002 年 5 月改選
常議員半数改選	(改 選)浅里和茂、鈴木利夫、二郷 精、橋本典久、八町雅康、 鹿戸 明、渡邊浩文 (非改選)相沢清志、Sanjay PAREEK、高島成侑、永井康雄、沼野夏生、 松本真一、持田 灯	2002 年 5 月改選 2003 年 5 月改選
企画運営委員	細田洋子、櫻井 宏	2001 年 1 月～12 月
監 事	土方吉雄、滝田 貢	2001 年 6 月～2002 年 5 月

## &lt; 支部事業 &gt;

研究委員会	[ 部会名 ][ 部会長 ] [ テーマ名 ] 構 造：小川淳二 耐震補強の技術向上を考える 材 料：出村克宣 新たな建築材料学教育のための調査研究 建築計画：若井正一 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画：相羽康郎 高齢化社会のまちづくりを考える 歴史意匠：高橋恒夫 家屋文鏡再読 環境工学：内海康雄 建築の省エネルギーに関する調査研究 施 工：田代 侃 新素材と施工技術の研究 建築デザイン：伊藤邦明 建築設計教育の充実を世界的観点から 再調査する	
支部研究助成 金による研究	東北地方の建築施工における環境負荷低減に関する調査研究 施工部会（研究代表者 田代 侃）	2001 年 4 月～2002 年 3 月
支部研究発表会	2001 年度東北支部研究発表会、研究報告集第 64 号刊行、 発表題数 130 題	2001 年 6 月 16～17 日 秋田県立大学本荘キャンパス
支部主催、支部 共催イベント	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 「建築を考える市民講座」(福島市) 「堤町たんけんワークショップ」(仙台市) 2. 支部共催 1) 親と子の建築講座 郡山会場「建築のひみつ『かたちとつよさ』」 仙台会場「南材木町・河原町たんけんワークショップ」 弘前会場「棟梁建築家堀江左吉の業績をたどる」 山形会場「建築 CAD によるアニメーション作成」	2001 年 6 月 23 日 2001 年 6 月 23 日 2001 年 8 月 2001 年 11 月 2001 年 8 月 2001 年 10 月

研究部会主催 事業	1. シンポジウム 2. その他、各支部ごとに講習会・研究会・見学会など適宜開催	
表彰	1. 第 21 回東北建築賞 作品賞 3 点、審査員特別賞 3 点、業績賞 1 点 2. 支部功労会員 佐藤 平、外山隆吉、浅利昭男、佐藤昭夫	
支所活動	青森支所 1) 全員協議会 2) 第 21 回東北建築賞作品展(八戸市) 3) 親と子の建築講座「弘前を知る Part2 - 棟梁建築家堀江左吉の業績をたどる」(青森市) 秋田支所 1) 役員会 2) 第 30 回建築学科生徒による建築設計作品コンクール(秋田市) 3) 第 21 回東北建築賞作品展(秋田市) 岩手支所 1) 第 21 回東北建築賞作品展(盛岡市) 2) 第 28 回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 3) 第 32 回県下工業高校設計作品コンクール 山形支所 1) 親と子の建築講座「建築 CAD によるアニメーション作成」(山形市) 2) 第 21 回東北建築賞作品展(山形市) 福島支所 1) 第 21 回東北建築賞作品展(郡山市) 2) 作品展記念講演会(郡山市) 3) 親と子の建築講座「建築のひみつ『かたちとつよさ』」(郡山市)	2001 年 10 月 2001 年 8 月  2002 年 2 月 2002 年 3 月  2002 年 2 月 2002 年 2 月 2002 年 2 月  2001 年 10 月 2002 年 1 月  2002 年 2 月 2002 年 2 月 2001 年 8 月
刊行活動	支部年報第 21 号発行 東北支部研究報告集第 64 号発行 東北建築作品集(第 12 号)発行	2001 年 5 月 26 日 2001 年 6 月 17 日 2001 年 10 月 20 日

## &lt; 支部共通事業 &gt;

講習会	1) 建築基礎構造設計指針改定講習会	2001 年 10 月 10 日 仙台市戦災復興記念館
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2001 年 9 月～10 月
審査会	設計競技 テーマ:「子供の居場所」支部選考	

## 法人・賛助会員

安藤建設(株)東北支店	(株)阿部重組	阿部建設(株)	青柳工業(株)
秋山建設	旭硝子(株)仙台支店	伊藤組土建(株)東北支店	(株)石本建築事務所東北事務所
(株)オー・エム・シー	大木建設(株)東北支店	大槻電設工業	(株)大林組東北支店
(株)関・空間設計	(株)奥村組東北支店	鹿島建設(株)東北支店	共立建設(株)東北支店
(株)久米設計東北支社	(株)熊谷組東北支店	五洋建設(株)東北支店	(株)鴻池組東北支店
佐藤工業(株)東北支店	清水建設(株)東北支店	常磐開発(株)	(株)銭高組東北支店
仙建工業(株)	(株)大気社東北支店	大成建設(株)東北支店	大末建設(株)東北支店
太平電気(株)本社	高弥建設	(株)竹中工務店東北支店	鉄建建設(株)東北支店
戸田建設(株)東北支店	東海興業(株)東北支店	東急建設(株)東北支店	(株)ユアテック
飛鳥建設(株)東北支店	那須建設	中城建設	(株)西原衛生工業所東北支店
西松建設(株)東北支店	日産建設(株)東北支店	日営建設(株)東北支店	(株)間組東北支店
橋本店	(株)フジタ東北支店	(株)深松組	堀江工業(株)
前田建設工業(株)東北支店	升川建設(株)	(株)松村組東北支店	三井建設(株)東北支店
三菱建設(株)東北支店	三菱地所(株)東北支店	三菱電機(株)東北支社	(株)南建設
(株)山下設計東北支社	東亜建設工業(株)東北支店	(株)ウンノハウス	(株)梓設計東北事務所
伊藤喜三郎建築研究所東北事務所	東日本興業(株)	(株)都市建築計画	佐藤工業(株)福島市
北洲ハウジング仙台支店	菅野建設(株)	(株)設計集団空	(株)タカムラ
(株)小松悠紀設計事務所	日新設備(株)仙台支店	日特建設(株)東北支店	セルコホーム(株)
東北ポール(株)	(株)昂設計	(株)みちのく設計	(株)針生承一建築研究所
(株)現代建築工房	第一工業(株)東北支店	三菱地所ホーム(株)仙台支店	(株)教育施設研究所東北事務所
ジェイティ不動産(株)仙台支店	東北ドック鉄工(株)	(財)日本不動産研究所仙台支所	(株)盛総合設計
(株)熊谷保治建築設計事務所	千田総兵衛建築事務所	(株)菅野宏史建築設計事務所	(株)杜都設計
日高見調査設計事務所	(株)内海建築事務所	(株)蔵王建築設計事務所	(株)横山芳夫建築設計監理事務所
(株)金原設計	(株)都市構造研究センター	(株)東北設計計画研究所	株本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室
(株)泉パークタウンサービス	(株)清水公夫研究所	(株)西洋環境開発	(株)榊鐵工所
(株)エムアイディ建築研究所	旭化成建材(株)	常盤電設産業(株)	日本原燃(株)六ヶ所本部
(株)東北開発コンサルタント	東日本旅客鉄道(株)東北工事事務所	(株)INA 新建築研究所東北支店	協成第一鉄工(株)
はりま建設(株)	高吉建設(株)	東北電力(株)	日本大学工学部
(株)NTTファシリティーズ東北支店	青森建設協同組合	八戸工業大学	(社)日本電設工業協会東北支部
日本サッシ協会	(株)東北川島織物	I N A X 東北支社	宮城県管工業協同組合
東北空気調和衛生工事業協会	東北文化学園専門学校	住宅金融普及協会東北支部	日刊建設産業新聞社東北支社
仙台デザイン専門学校	(株)フルタプランニング	東北芸術工科大学	(社)宮城県設備設計事務所協会
東北歴史資料館振興会	(株)ティ・アール建築アトリエ	医療法人久幸会	(株)工一テック
山形県立図書館	正和工業(株)	ニッセキハウス工業(株)住宅研究所	(株)志賀設計
(株)田村設計室	(株)佐藤総合計画東北事務所	氏家建築設計事務所	(株)ダイテック
(株)石川設計	(株)楠山設計	東北文化学園大学	東洋緑化(株)
東開クレテック(株)	蔭山建設(株)	(株)若松六本木設計	(株)安藤組
(株)建築工房DADA	エヌ・ティ・ティ都市開発(株)首都圏支店	(株)大木工務店	(株)オギノ
(株)蔭山工務店	東北設備工業(株)	滝谷建設工業(株)	ムツ電(株)
三友電設(株)	東新電気工業(株)	(株)オオバ工務店	